

一般質問通告一覧

平成28年第3回島田市議会定例会
平成28年9月9日・12日・13日本会議

島 田 市 議 会

◎ 発言順位

(頁)

平成28年9月9日(金)

14番	紅林	貢	議員(一問一答)	-----	1
5番	森	伸一	議員(一問一答)	-----	2
12番	仲田	裕子	議員(一問一答)	-----	3
18番	平松	吉祝	議員(一問一答)	-----	4
13番	大石	節雄	議員(一問一答)	-----	5
8番	村田	千鶴子	議員(一問一答)	-----	6

平成28年9月12日(月)

17番	藤本	善男	議員(一問一答)	-----	7
6番	伊藤	孝	議員(一問一答)	-----	8
3番	横田川	真人	議員(一問一答)	-----	9
1番	青山	真虎	議員(一問一答)	-----	10
7番	清水	唯史	議員(一問一答)	-----	11
16番	八木	伸雄	議員(一問一答)	-----	13
4番	山本	孝夫	議員(一問一答)	-----	14

平成28年9月13日(火)

11番	佐野	義晴	議員(一問一答)	-----	15
2番	杉野	直樹	議員(一問一答)	-----	16
10番	桜井	洋子	議員(一問一答)	-----	17

○一般質問の質問時間のめやす

質問者	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目	6人目	7人目
質問時間	9:30 ~ 10:20	10:20 ~ 11:10	11:10 ~ 12:00	13:00 ~ 13:50	13:50 ~ 14:40	14:50 ~ 15:40	15:40 ~ 16:30

あくまでもめやすです。

議員により質問時間は変動しますので、あしからず御了承ください。

1. 14番 紅林 貢 議員 (一問一答)

1. 島田の教育について

今、人口減少が大きな問題となっている。また、人口の東京への一極集中も依然として続いている。魅力ある島田市をつくるために何が出来るのか。また、未来の島田市を担う人材育成を急がなければならないとの思いから、以下質問する。

(1) 島田市の幼児教育について

幼児教育（保育）の重要性が言われているが、島田市の方針、体制づくりについて伺う。

- ① 島田市の幼児教育（保育）に関する基本的な考え方はどうか。
- ② 人口減少が幼児教育に与える影響はどうか。
- ③ 島田市の保育園、幼稚園の現状と今後についてどのように認識しているか。
- ④ 保育園待機児童「ゼロ」への取り組みはどうか。

(2) 島田市の学校教育について

- ① 島田市の小規模校への今後の考え方はどうか。
- ② 平成32年度から英語教育が小学校5年生から正式教科となる。また、外国語活動は小学校3年生からの実施が示されたが、島田市の準備等の課題はどうか。
- ③ 英語教育を島田市の教育の特徴にすることはできないか。

2. 5番 森 伸一 議員 (一問一答)

1. 蓬萊橋お休み処整備事業について

大井川ミズベリング協議会では「当面、蓬萊橋周辺地区の水辺空間利用を協議する」とのことだが、その内容などについて以下伺う。

- (1) 5月に発足した協議会ではどのような話がなされ、今後の進め方をどのように考えているか。
- (2) 検討部会は何回行い、どのような方から意見が出たか。
- (3) 蓬萊橋周辺を含む全体像、将来像をどのように描いているか。

2. 島田市の防災に対する基本的な考え方について

防災関連で国や県から指針が出されるが、市として自主的な対応も必要ではないかと考え、以下伺う。

- (1) ことし6月、国土交通省が大井川洪水浸水想定区域図を公表した。市の洪水ハザードマップと少し異なるが、どのように受けとめ、市民に対してどのような説明をしているか。
- (2) 8月20日の静岡新聞によると、県は乳幼児用安定ヨウ素剤配備をする方針を決めたようだが、これについて市はどのように把握し対応を考えているか。
- (3) 原発事故時の屋内退避について市民から不安の声も聞かれるが、国の指針に対して市として変更などの要望を出す考えはあるか。

3. 12番 仲田裕子 議員 (一問一答)

1. 地域活性化事業のあり方について

地域活性化については、市議会においても「地域活性化に関する特別委員会」を設置し、島田市を活性化させ、交流人口や移住定住人口に関する施策をどのように進めるべきかを検討している。

過去2度の合併により島田市の面積約315.7平方キロメートル、合併当時10万人を超えていた人口も現在では約9万7千人強と減少している。今後の島田市の活性化をどのように考えるか、以下質問する。

- (1) 人口の減少や高齢化に伴う商店数の減少により、生活サービスの低下や地域を維持することさえ困難な状況が生じると思われるが、その対策を伺う。
- (2) 中山間地域の交流人口や移住人口への対策を伺う。
- (3) 民間公共交通機関、コミュニティバス、お出かけバス、通学バス等の課題を伺う。
- (4) 島田市の魅力を再発見し、PRや情報発信をどのような形で検討しているか伺う。
- (5) 島田市の活性化に鑑み、旧金谷中学校跡地の進展はあるか伺う。
- (6) 島田の逸品で選定された商品を島田市の活性化にどのように生かすか伺う。
- (7) 島田市緑茶化計画の成果について伺う。
- (8) 賑わい交流拠点整備事業で委託した内容の進捗状況を伺う。

4. 18番 平松吉祝 議員 (一問一答)

1. 六合駅周辺整備について

国の道路行政は予算が52%しかついていないことで、道路整備が遅々としている最大要因であることは否めないが、道路は生活のかなめであり、生活道路、防災道路、通勤通学道路等、現在の私たちの暮らしには大変重要なものであり、その整備は行政の責務である。六合地区の道路整備について伺う。

- (1) 東町御請線は今年度中に開通とのことだが、引き続き御請道悦線基盤整備を行うに当たっての現状はどうか。また、予定はどのようになっているか。
- (2) 六合駅周辺道路整備の現状と今後はどうか。
- (3) 緊急車両が入らず、防災道路として機能しない道悦四丁目の基盤整備はどのように考えているか。
- (4) 御請道悦線にかかる道悦四丁目にある墓地の移転先はどのようになっているか。
- (5) 道悦弘法道線の今後の整備の見通しはどうか。

2. 保育園建設予定について

3月中旬、向谷と六合の2地区に保育園建設予定があると六合地区の議員に説明があった。ゼロ～2歳児の「保育園建設」という大義のもとに、六合公民館駐車場への建設という、既に「建設ありき」の住民への説明は住民を疑心暗鬼にさせる。なぜならば、六合公民館やその駐車場は六合住民の歴史や思いのある場所だからである。六合地区は人口2万人弱の規模があり、それに対応する駐車場として、大半の住民はこの駐車場は必要不可欠であると認識している。六合公民館を中心としたコミュニティー活動は豊かな地域活動の原点でもあり、防災や危機管理の面からも必要不可欠である。保育園建設がなぜこの場所に必要なのか、そこから論議していかなくてはならないのではないかと。以下伺う。

- (1) 計画作成に当たり、地元住民の意向を確認したか。
- (2) 計画作成は誰がどこで行ったか。
- (3) 2億6,000万円という建設費の試算は何を根拠に出したか。
- (4) 待機児童は現在何名か。また、今後の推移予想はどうか。
- (5) 向谷地区に建設を予定している保育園を対応可能な規模とすることはできないか。また、既存の保育園活用はできないか。
- (6) 幼保一元化の流れは今どのようになっているか。

5. 13番 大石 節雄 議員 (一問一答)

1. 島田市の子育て保育の現状について

全国的にも子育て保育の現状は、待機児童問題、保育士不足など課題は山積している。静岡県内、島田市内においても同様の課題はある。これは、出生率にも関係し少子化問題にも影響がある。子育て環境の改善は、将来の島田市を想像したときに今以上に対策を講じていかななくてはならないものと考え、以下質問する。

(1) 市内保育所の現状について

- ① 保育所待機児童の現状はどうか。
- ② 各保育所の保育の課題は把握しているか。
- ③ 市内保育所の保育士は十分足りているか。
- ④ 保育士不足の課題は何か。
- ⑤ 民間を含めて新卒の保育士の採用はあるか。

(2) 保育園民営化の現状について

- ① かわね保育園の移管先法人との引き継ぎ状況はどうか。
- ② 引き継ぎ完了までのスケジュールはどうか。
- ③ 川根地区は子育て環境としては素晴らしい所と考える。この保育園民営化を機会に地域と連携して子育て環境オンリーワンを目指してはどうか。

2. 横井運動公園整備計画について

平成27年4月から供用が開始されている横井運動公園サッカー場は、多くの市民に利用され市民のスポーツ振興に大きな役割を果たしている。昨年の9月定例会において、同様の質問をしているが、整備計画策定の進捗状況や整備の考え方について、以下伺う。

(1) 河川占用許可について

- ① 国土交通省との河川占用許可状況はどのようになっているか。
- ② 河川占用許可が交付された場合に整備可能なもの、また、不可能なものは何か。

(2) 整備計画策定の進め方について

- ① 具体的なタイムスケジュールはどうか。
- ② 計画策定に当たって市民の意見をどのように反映するか。

1. 島田球場の施設整備について

市長は、所信表明にて「稼ぐまち」を目指すと言われ、施策に取り組んでいる。地域資源を活用し、健全なスポーツを通して地域経済に寄与できる観点から、島田球場を生かせば大きな効果が期待できる拠点となると確信する。かつては、島田商業高等学校野球部の全盛時代には、大いに盛り上がり「野球のまち しまだ」と言われ、今もその誇りを持っている市民は大勢いると思う。しかし、昨今は全国高等学校野球選手権静岡大会において、島田球場は駅からも近く、駐車場はバスも停められ、中部地区の真ん中に位置しているなど立地条件は良いにもかかわらず、3回戦の試合までの会場となり残念である。地元の横井住民からも、利便性の良い島田球場が更に利用される球場になるようにと、強い要望の声が上がっている。スポーツを通して地域資源を活用した地域活性化施策について、以下当局の見解を伺う。

- (1) 施設の現状をどのように把握しているか。
- (2) スコアボードは電光掲示板の設置をとの要望の声があるがどうか。
- (3) 球場利用についての方針はどうか。
- (4) 第2次避難所として指定となっているが、危機管理の体制は大丈夫か。

2. 難聴者・中途失聴者の参加しやすい社会環境づくりについて

平成28年4月1日より、全ての国民が障がいの有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現につながることを目的とした「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（略して障害者差別解消法）」が施行され、真の意味で障がいのある方の差別が解消されることを期待する。さて、私は、平成22年9月定例会において、今回の題目にて一般質問をした経緯がある。それを踏まえて、難聴者に対する社会の理解と福祉の向上に向けて、以下当局の見解を伺う。

- (1) 市内在住の聴覚障がい者（身体障害手帳所有）の人数及び障がい程度の内訳はどうか。
- (2) 耳マーク表示板（コミュニケーションの配慮を求めるシンボル＝筆談に応じます）の公共施設への普及はどうか。
- (3) 人工内耳装置に対する助成について、その後の検討経過はどうか。
- (4) 要約筆記啓発講座への職員の参加はどうか。

7. 17番 藤本善男 議員 (一問一答)

1. 地域産業の振興について

昨年策定された「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、地域経済の持続的な発展、人口減少の克服、暮らしやすいまちづくりを基本的な考えとして、基本目標や主な施策が立案された。

地域経済が持続的に発展するための施策の基本は「しごと」の創出であることから、その動向について以下伺う。

(1) 市内主要産業の動向について

- ① 一人当たりの市民所得、市内総生産額はどのような状況にあるか。
- ② 産業別の動向はどのような状況か。

(2) 産業の創出及び振興について

- ① 空港周辺の活性化や新東名高速道路周辺における新たな産業の創出のための開発の進捗はどうか。
- ② 地域産業を支える中小企業の経営基盤の強化など、競争力を高める産業振興は進んでいるか。

2. 市の定住政策について

人口減少社会への対応として、地方ではさまざまな施策が実行に移されている。これらの政策により首尾よく人口集中地域から人を呼び寄せることに期待するが、その一方で地方自治体間同士の人口移動も無視できない。

国では低所得者の新生活開始に対するサポートを充実する動きも見られるが、定住政策の現状に対し以下伺う。

(1) 市内への移住状況について

- ① 首都圏などの大都市圏からの移住件数はどのような状況か。
- ② 移住した方の年齢や職業などの傾向はあるか。

(2) 市内在住者の定住化に向けた施策について

- ① 島田市への定住を促進する施策の成果はどうか。
- ② 今後新たな事業は考えているか。

1. 富士山静岡空港について

開港後7年が経過し、騒音等さまざまな課題がある中、近隣住民は運用時間の延長を認めた。課題解決策がはっきりしない現状で地元への事前説明もなく、川勝知事が自衛隊静浜基地の静岡空港への移転を発表したことに驚いたが、その後の説明では広域防災機能を高めるため静浜基地が持つ災害時対応機能を静岡空港に整備するとのことであった。しかし、地元住民の理解があつてこそその空港運営である。どんなささいなことでも静岡空港の運用、整備については、記者発表の前に地元住民への説明が必要と考える。

その点において静岡県の対応が、最近雑になっていると感じる。県職員の人事異動等で、空港建設時における地元との約束や経緯を知る職員が少なくなっていると聞く。このままでは、県は地元住民との約束を無視した空港運営を行うおそれがあると感じたことから、島田市としてどのように考えているのか確認をするため、以下質問する。

(1) 自衛隊静浜基地移転の知事発言について

- ① 知事発言への対応と現状はどのようになっているか。
- ② 自衛隊静浜基地移転についての市の見解はどうか。

(2) 騒音問題について

- ① アクセス道路の騒音対策はどのような状況か。
- ② 当初予定されたアクセス道路の建設状況はどうか。

(3) 静岡空港西側に予定されている商業施設について

- ① 新東名島田金谷IC周辺整備、旧金谷中学校跡地とのかかわり方はどうか。

2. ICT活用について

日常生活でICT機器は、なくてはならないものになっており、今後も重要なものと位置づけられている。ICT機器を正しく活用するために学校で正しく教育する必要があることから、以下質問する。

(1) 教育現場での活用状況について

- ① 現状と今後の計画はどのようになっているか。
- ② 教育施設のWi-Fi環境の整備状況はどうか。

3. 防災対策について

熊本地震や今回の台風など、いろいろな災害が起きている。これらの災害に備える必要があることから、以下質問する。

(1) 避難所等の備えの状況について

- ① トイレの洋式化率はどのような状況か。
- ② 仮設トイレはどのような状況か。
- ③ 熊本地震等を踏まえ備蓄品で不足している物はないか。

(2) 水害対策について

- ① 市民の防災メール登録率はどうか。
- ② 防災倉庫等の水害対策はどうか。

9. 3番 横田川 真人 議員 (一問一答)

1. 子供の貧困について

子供の貧困が社会問題として注目されている。島田市では子供の貧困についてどのような認識のもと、どのような対策をしているか伺う。

(1) 島田市内における子供の貧困の現状について

- ① どのような家庭を貧困と定義するか。
- ② 市内で貧困とする家庭の数はどうか。

(2) 子供の貧困に対する施策について

- ① 施策の内容はどうか。
- ② 対応策は足りているか。
- ③ 学校との連携はできているか。

(3) 経済的な理由から家で満足な食事をとることができない子供に食事を提供する「こども食堂」を導入する考えはあるか。

2. ICT環境の整備について

インターネット光回線の未整備地域への整備事業費補助金が、今定例会に補正予算として提出された。事業内容と今後の展開について伺う。

(1) 光ファイバ網整備事業費補助金について

- ① 補助金となっているが、事業主体はどこか。
- ② 未整備地域をすべてカバーするのか。
- ③ 整備をすることでどのようなメリットが想定できるか。
- ④ 次期島田市総合計画では光ファイバ網整備事業の位置づけはどうか。

(2) 整備後の利活用について

- ① フリーWi-Fiの整備を進める計画はあるか。
- ② 高速インターネット環境を必要とする企業等を誘致する考えはあるか。
- ③ 光回線があることをどのようにして、市内外に周知させるか。

(3) 観光の面でAR（オーグメンテッド・リアリティ）を積極的に導入をする考えはあるか。

10. 1番 青山真虎 議員 (一問一答)

1. 市民に寄り添った市政について

高齢者が転ばないためには道路のでこぼこや歩道の傾斜について昔より随分気遣いが必要になった。若者に定住を促すには予算を伴った子育て施策も考えなければいけない。市民生活のほとんどの場面で福祉を意識しなければならない時代に入った一方で、町内会活動に若者がほとんど参画していない地区が少なからずあり、地域福祉の未来に不安を残す。今回は福祉の未来を考えつつ、以下質問する。

- (1) 市民の平均寿命は何歳か。また、全国市町村で何位か。
- (2) 官地の扱いを市民(高齢者)の「生きがい指定区域」にして整備を図ってはどうか。
- (3) 若い世代が町内会活動に参画するためにどのような工夫が必要か。
- (4) 学校給食を無料にした場合の予算は幾らか。
- (5) 小公園やキャンプ場の新設は考えているか。
- (6) 自衛隊の静浜基地を静岡空港に移転したい考えを静岡県知事が発言したが、その考えを支持するかしないか。
- (7) 市民病院の外来について生産年齢世代が短時間で受診できる仕組みは必要ないか。

2. コミュニティバスのダイヤ改正について

4月のダイヤ改正から5カ月がたった。様子はどうか。

- (1) 市民の声はどうか。子供たちが危険な目に遭っていないか。

3. 子ども議会の開催について

将来の大切なことは今決められている。若い世代に市政に興味を持ってもらうため、さらなる啓発が必要と考え提案する。

- (1) 次世代は地域課題を主体的に考えることができ、行政はアイデアを得ることができる。小・中学生を対象とした子ども議会を開催するべきと思うがどうか。
- (2) 市役所ロビーのTVモニターで市議会定例会や常任委員会を中継する設備を設置することは可能か。

11. 7番 清水唯史 議員 (一問一答)

1. 災害時における行政の業務継続のための取り組みと過去の災害を教訓とした被災復旧の対応について

平成23年6月定例会の一般質問において、東日本大震災を教訓に大規模な地震災害が発生した際、地方公共団体は地域住民の生命、身体、安全確保、被災者支援、企業活動の復旧のために災害応急業務、復旧業務などの主体として、重要な役割を担わなければならない。また、災害時であっても継続して行わなければならない行政としての通常業務も抱えていることから島田市における業務継続のための取り組み、いわゆるBCP対策の状況を質問した。

東日本大震災以降、平成26年8月の広島市における豪雨による土砂災害、平成27年9月の関東・東北の豪雨、そしてことし4月14日に発生した熊本地震など各地で大きな災害が発生している。そこで、前回の質問から5年が経過した現在、市の災害時における業務継続のための取り組みについて、また災害を教訓とした被災復旧の対応について以下質問する。

(1) 平成23年6月の質問では、東日本大震災のような大災害が発生した場合は、市自体も周辺地域と同様に被災し、業務の実施に必要不可欠な人、物、情報やライフライン等の人的・物的資源が制約を受け、業務継続が困難となるおそれがあるため、業務継続計画の策定について具体的に検討したいと考えているとの答弁があった。その後の取り組みについて

- ① 業務継続計画はどのように作成したか。
- ② 住民基本台帳や課税台帳等の市民生活に直結する重要なデータのバックアップ体制を伺う。
- ③ 職員の被災による人的不足に対する人員確保対策を伺う。

(2) 災害発生後のライフラインの復旧、情報伝達について

- ① 飲料水の確保、水道復旧に対しての対応策を伺う。
- ② ガス（特に都市ガス利用地域）の復旧の対応策を伺う。
- ③ 電気の復旧の対応策を伺う。
- ④ FM島田との災害時における協定の内容を伺う。

(3) 被災住宅の対応について

- ① 東海地震、東南海・南海地震が連動して発生した場合、島田市における予想震度と被害住宅の想定を伺う。
- ② 被害住宅から排出される災害廃棄物の予想量を伺う。また、その処理対応策を伺う。

2. 志太3市市長会談の取り組みについて

7月19日に開催された第4回志太3市市長会談において、「生活圈、経済圏を一にする志太3市が共通して抱える諸課題に備えるため、各自治体の独自性を確保しつつ行政の枠組みを超えて戦略的な広域連携を推進し、行政効率やサービス提供能力の向上を図ることを目的で開催される」と、開催市の島田市長が冒頭述べて開催し、各市長から個別の提案が出された。そこで、藤枝市長、焼津市長からの提案に対して、島田市が今後2市とともにどのように取り組んでいくのか、以下質問する。

- (1) 藤枝市長からの提案である、「起業・創業、中小企業への連携支援による圏域内の活性化」についての取り組みを伺う。
- (2) 焼津市長からの提案である、「3市の地域資源を利活用した観光施策の推進」についての取り組みを伺う。

1. 島田市の防災対策について

行財政改革を公約に市長に就任した染谷市長のもとで、市役所の組織機構で新たな部が2つ新設された。一般的には、小さな政府・行政機構に努めることが行政改革につながるとの認識が多い中で、あえて行政改革に逆行すると思われかねない組織拡大にはそれなりの市長の思いがあるものと推測する。

先の定例会で熱海市の行政改革の成功を例に挙げ、島田市の経常収支比率のうち、人件費比率が他市と比較して突出して高いことを指摘した。

市民から見れば、そうした組織改編は公約に矛盾しているとも受け取られかねないと思われるが、あえて組織変更をした意図と成果について質問する。

- (1) 危機管理課を危機管理部とし、危機管理上は全ての部署を統括する位置づけとした。その意図と成果は市長の満足できるものか。
- (2) 危機管理部を創設して、成果の中で最も評価できる点は何か。
- (3) 危機管理部の創設により島田市の防災は十分な体制となったか。
- (4) 島田市におけるハザードマップとは何か。また、どのようなものがあるか。
- (5) 現在のハザードマップで市民の安全は担保できるか。また、その精度と市民への周知について伺う。
- (6) 異常気象が当たり前の今日における島田市の台風、集中豪雨への対策を伺う。
- (7) 地震による道路施設の減災対策を伺う。
- (8) 浜岡原発の避難計画は満足できるものか。
- (9) 市民病院の建設に対して地盤の安全に対する認識を伺う。
- (10) 危機管理部並びに市職員の防災意識向上のために、十分な教育訓練はできているか。
- (11) 災害を想定したとき、市庁舎は市民の安全を守れるか。

13. 4番 山本孝夫 議員 (一問一答)

1. 島田市の入札制度について

地方自治体が行う契約は、公平性を保つため入札によることが原則となっている。しかし、契約の内容が特殊な技術性を必要とするものや文化芸術性の理解知識を必要とする案件もあり、ただ単に金額だけの競争で本来の契約目的にふさわしくない結果となることを危惧して、以下入札制度について伺う。

- (1) 入札案件は年間何件あるか。
- (2) そのうち一般競争入札以外の入札はどのような入札があり、それぞれ何件か。
- (3) 一般競争入札以外の入札を採用した根拠は何か。
- (4) 一般競争入札以外の入札を採用した場合に懸念される弊害はどのようなものがあるか。
- (5) この弊害をなくすためにどのような工夫をしているか。
- (6) 特殊な技術性を要する入札案件の現状はどうか。
- (7) 文化芸術性を要する入札案件の現状はどうか。

2. オリンピック事前合宿誘致活動の今後について

リオデジャネイロオリンピックが閉会し、現在リオデジャネイロパラリンピックが開催されている。島田市からもオリンピックには1名が出場され、またパラリンピックには2名の選手が出場されて活躍が期待される。

さて、以前の定例会において副市長がシンガポールの卓球ナショナルチームの事前合宿を島田市に誘致すべく現地に赴いたと聞いている。以下その内容と今後の計画について伺う。

- (1) シンガポール現地での誘致活動内容と成果はどうか。
- (2) 誘致する場合の問題点は何か。
- (3) 市民にとってメリット、デメリットは何か。
- (4) 他の種目または他の国に対する誘致の考えはあるか。
- (5) 今後の誘致活動の予定はどうか。

14. 11番 佐野義晴 議員 (一問一答)

1. これからのまちづくりと各計画書の策定について

これから策定されるまちづくりのための各計画書は、少子高齢化に伴う人口減少と急速な社会情勢の変化を背景に、柔軟であってかつ高い精度と効率性が求められる。

その進め方として、数多い要望等の中から何を重点事業として、いつまでに、どのような手法で、このようにする、と言った「見える化」が必要と考える。

それには国の政策動向の把握、合併の検証など、周辺状況との整合性にも配慮し、市民が夢を持てる内容が求められる。

なお、次期島田市総合計画などの各計画書の見直しが重なる今こそ、新たな「まちづくり」を進める上でまたとない機会と考える。

以上を踏まえ、以下質問する。

- (1) 次期島田市総合計画（次期総合計画）、次期中心市街地活性化基本計画（次期中活計画）、国土利用計画島田市計画、そして公共施設適正化推進プラン（推進プラン）の策定、見直しなど4つの計画動向を伺う。
- (2) 中心市街地を再生、活性化するための新たな施策は何か伺う。
- (3) 分野別の計画と新市立島田市民病院建設基本計画との関連性、一体性をどのように確保していくか伺う。

15. 2番 杉野直樹 議員 (一問一答)

1. 公有財産の有効利用について

市が保有する公有財産には動産や不動産などがあり、その中でも不動産については利用価値の高い不動産でも眠ってしまっているものがあると思われる。地域振興を進めていく上でも公有財産の有効利用は今後、計画的に進めていく必要があると考えることから以下伺う。

- (1) 市が土地を保有する強みは何か。
- (2) 市が保有する公有財産のうち、利用していないまとまった土地の合計面積と資産価値は幾らか。
- (3) 市が保有するまとまった土地で、今後有効利用しようと考えている場所はどこか。
- (4) 今後市の考える土地利用は、借地として民間に貸す方法と売却する方法があると考えられるが、市の方針としてはどちらで進めるべきと考えるか。

2. 市内企業の社会貢献について

市内には多種多様な企業が存在し、企業により理念、方針もさまざまである。市内企業の中には、それぞれの形で地域貢献をしている企業が数多くあると考えられるが、そのような企業に対して、市はどのように関わっていくべきと考えているか以下伺う。

- (1) 市が考える社会貢献企業とはどのような企業のことを言い、企業の社会的責任とはどのようなことと考えているか。
- (2) 行政と企業はどのような協力体制にあることが望ましいと考えているか。
- (3) 市が企業の社会貢献度を評価する場合、どのような方法があるか。

1. 子どもの貧困対策について

昨年政府が発表した子どもの貧困率（2012年）は16.3%に及び、OECD加盟国34カ国中ワースト10と深刻な状況にある。子どもの約6人に1人が貧困状態にあり、中でも深刻なのはひとり親家庭世帯で、その相対的貧困率は54.6%に及ぶ。また、貧困ラインが低下しているにもかかわらず、貧困率は年々上昇する深刻な事態となっている。国、自治体、関係団体、それぞれにおいて、子どもの貧困解決の政策形成が課題となっており、その本気度が問われている。そこで、市の施策について以下伺う。

- (1) 子どもの貧困の現状を市はどのように把握しているか。また、保育園、幼稚園、学校の職員は子どもが発する貧困のサインをどのように捉えているか。
- (2) ひとり親世帯を初め、子どもを持つ低所得世帯に対して、市はどのような支援をしているか。また、市独自で行っている支援は何か。
- (3) 小・中学生がいる家庭で、経済的な理由などにより教育費の支払いが困難な家庭を対象に、就学に必要な費用の一部を援助する就学援助制度がある。
 - ① 小・中学校別の受給状況はどうか。
 - ② 援助メニューに入学準備金があるが、実際に支給されるのは入学後だ。入学前に支給できるようにするべきと考えるがどうか。
 - ③ 国の援助メニューに追加されたクラブ活動費、生徒会費、PTA会費について、市で実施する考えはないか。また、卒業アルバム代、眼鏡代など市の独自給付を加え、充実するべきと考えるがどうか。
- (4) 多子世帯等への援助について
 - ① 保育料について、所得制限、年齢制限を外す助成を実施する考えはないか。
 - ② 子どもの医療費助成を高校生まで拡大する考えはないか。
- (5) 貧困の連鎖を生まないための、人と人がつながる安心できる居場所づくりについて
 - ① 困窮世帯の子どもの「無料塾」などの学習支援を行う体制をつくる必要があると考えるがどうか。
 - ② 食生活の貧困に対応する「子ども食堂」などの取り組みを支援する考えはないか。